



城だより

第672号

日本古城友の会・会報

令和6年(2024)12月1日発行

日本古城友の会 総会・新年互礼会の御案内(1月・第735回例会)

日時：令和7年1月19日(第3日曜日) 10:00～

場所：大阪市立中央会館 第2会議室 大阪市中央区島之内2-12-31

Osaka Metro 堺筋線・長堀鶴見緑地線「長堀橋駅」下車⑥出口から南東へ7分

参加費：総会(午前) 200円

史跡めぐり(午後) 300円

(会場費・資料代・保険代として、各自硬貨をご用意ください。)

次第

① 総会 10:20～12:00

令和6年度 事業報告・会計及び監査報告

令和7年度 事業計画(見学地の選定)

※ 午前中にて総会は終了し、会場を退出します。各自昼食をとっていただき、13時に大阪市立中央会館前に再集合。午後からは「豊臣大坂城惣構南西部と周辺の史跡」を巡る予定です。

② 史跡めぐり 13:00～16:30頃

案内講師：藤岡秀典氏(当会広報部長)

集合時刻：13時 解散時刻：16時30分頃

集合場所：大阪市立中央会館前

行程：大阪市立中央会館 → 高津宮(休憩) → 土屋相模守蔵屋敷跡 → 住友銅吹所跡(休憩) → 空堀商店街 → 桃園公園(休憩) → 豊臣大坂城南惣構推定地 → 谷町六丁目駅(解散16時30分頃)

※ 徒歩約3.5km(高低差・一部足場の悪い場所あり)

※ 直木三十五記念館入場料500円(希望者のみ)

(総会・史跡めぐり、いずれも開催は新型コロナ感染状況によります。必ず本会ホームページを確認の上、御参加ください。)

2月・第736回例会の御案内 (総会提出原案)

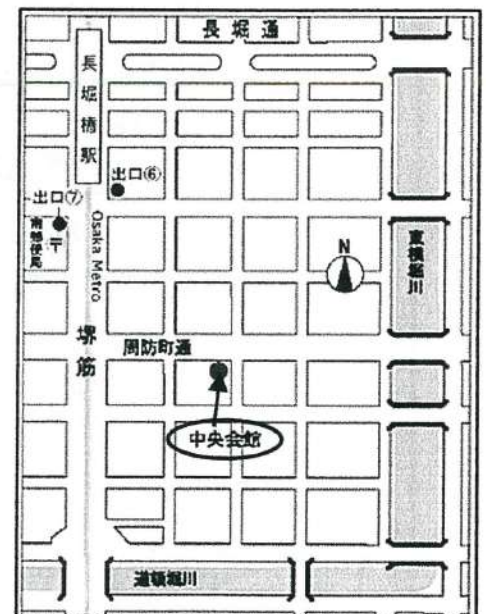
日時：令和7年2月2日(第1日曜日) 現地集合

場所：三木城 秀吉本陣跡(平井山ノ上付城跡コース)

担当幹事：高菅純子・中西 徹 ※詳細は次号に掲載します。

受贈図書・資料

・「歴史研究」第725号11月号(城郭修履図を読み解く)の筆者 神山 仁氏(日本城郭史学会盛岡支部長)より 11月号 松江城



輪Ⅰだけだった。

2) Ⅱ期(輝宗期): ほぼ、曲輪Ⅱ、曲輪Ⅲが造成された。

3) Ⅲ期(政宗期): 曲輪Ⅰの⑪の横堀を一部埋め戻し、⑫の土塁と⑥の石垣の内柵形虎口を造った。

(2) 同様に館山城ハンドブックⅡによりますと、「伊達型山城の変容」は以下のとおりです。

1) 伊達型山城Ⅰ期(1532～1549)

a) 植宗が天文元年(1532)に梁川城から桑折西山城に拠点を移し、晴宗に政権を移した天文18年(1549)までの18年間の伊達植宗期を指す。

b) 平城から山城へ転換する。帯曲輪が出現する。斜面や谷間に棚田状の曲輪を配置する。

2) 伊達型山城Ⅱ期(1548～1563)

a) 伊達晴宗が桑折西山城から米沢城に本拠を移した天文18年(1549)から家督を伊達輝宗に移譲する永禄8年(1565)までの16年間の伊達晴宗期を指す。

b) 根小屋を有する山城形態が急速に普及する。主郭を山頂とし腰曲輪、帯曲輪、短状帯曲輪を配置する。

3) 伊達型山城Ⅲ期(1563～1584)

a) 晴宗から家督を相続した永禄6年(1563)から政権を政宗に移譲する天正12年(1584)までの22年間の伊達輝宗期を指す。

b) 斜面や谷間を効率よく警備する棚田状曲輪群、谷間に連続する階段状斜面曲輪が採用されている。また、後半には側面防御の畝状横堀が登場してくる。また斜面曲輪、階段状斜面曲輪、帯曲輪、舌状曲輪群も普及し腰曲輪も採用して積極的な城改修が行われている。

4) 伊達型山城Ⅳ期(1584～1591)

a) 輝宗から家督を相続した天正12年(1584)から天正19年(1591)に岩出山城に移るまでの8年間の伊達政宗期を指す。

b) 主郭域の排水と仮設道路を兼ねた横堀状帯曲輪を用いる。そして、階段状の帯曲輪群の存在である。

館山城は思っていた以上に伊達家では重要な城だったようです。思わぬ立派な城に出会えて良かったです。(つづく)

注記

1. 縄張り図は現地および米沢観光物産協会で配布されているパンフレットのものです。

2. 鳥瞰図は現地で掲示されていたものを写真撮影したものです。

3. 「館山城ハンドブックⅡ」は令和5年3月31日に館山保存会が発行された書籍です。

日本古城友の会

会 長 中西 徹

事務局 事務局長 平川 大輔

HP アドレス <https://www.kojyo-tomonokai.com/>

編集・発行 編集部長 下岡 力